

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4090600042		
法人名	北九州福祉サービス株式会社		
事業所名	きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区帆柱4丁目1-22 (電話) 093-663-9500		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価確定日	平成22年4月1日

### 【情報提供票より】(平成22年1月29日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	9.4人

#### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(46,000・49,000・51,000)円	その他の経費(月額)	水道光熱費)17,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000円)	有りの場合 償却の有無	有(1年)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要 (1月29日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック
---------	--------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

血倉山麓の高台にある、静かな住宅地の中に、民家を改修した趣のある「グループホーム「自悠の郷」帆柱」がある。大きな庭石が配置されたホームの庭園には四季折々の樹木があり、天気の良い日には、リビングやウッドデッキから、その景色や周囲の山々を見る事が出来る。豊かな周辺環境を有している。「自悠」と名付けられたように、「人生を自由に、悠々と過ごし元気で笑顔のある生活」を過ごせるよう、一人ひとりの意思を尊重し、力を発揮してもらいながら本人を主体とした暮らしとなるよう支援している。毎日の食事のお品書きを書く方や、木製の雨戸の開閉を自身の役割として継続して行っている方、また居室の掃除はできる限り入居者の方々に行ってもらい、職員は困難な部分を手伝いながら、心身の機能維持を支援し、さりげなく寄り添うケアを実践している。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、市民センターで行われた「ふれあい昼食会」にて、認知症についての講演を行い、地域に向けての情報発信の機会を得ている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は管理者と介護リーダーが主体となり作成している。数名の職員からも意見をもらいながら取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議は、早めに日時を決定し参加を呼びかけており、家族の参加も多い。状況報告や予定案内を行い、地域からは、ふれあい昼食会や盆踊りなどの地域行事の案内が行われており、入居者の参加につながる等、地域との窓口としての機能を果たしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族から相談や意見があった場合には、「苦情・要望シート」を作成し、迅速な対応を行っている。また法人としての「お客様相談室」も案内しており、頂いた意見・要望は会議等で報告を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、一軒の家として自然な形での交流・活動を行っている。地域行事の案内を受け、盆踊りや餅つきに参加したり、市民センターでのふれあい昼食会に参加している。またホーム行事への参加を得たり、近隣の保育園との相互訪問は、日常的な交流として定着している。地域の方から認知症に関する相談を受けたり、市民センターにて「認知症の対応」についての講演を行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「地域の中でその人らしく暮らし続ける為に、家庭的で落ち着いた雰囲気の中で認知症の進行を緩和し、安心して生きがいがある普通の日常生活を送ることができるように支援をいたします」を基本理念として掲げている。またモットーとして「人生を自由に悠々と過ごし、元気で笑顔のある暮らし」と示し、更に3つのケア方針や8つのケア項目を作り上げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	新人オリエンテーション時には理念を伝え、理解と共有に取り組んでいる。また事務所等、目に触れやすいところに掲示している。具体的な方針等を示す事により、方向性を共有し、日々実践に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入し、一軒の家として自然な形での交流・活動を行っている。地域行事の案内を受け、盆踊りや餅つきに参加したり、市民センターでのふれあい昼食会に参加している。またホーム行事への参加を得たり、近隣の保育園との相互訪問は、日常的な交流として定着している。地域の方から認知症に関する相談を受けたり、市民センターにて「認知症の対応」についての講演を行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	前回評価以降、市民センターで行われた「ふれあい昼食会」にて、認知症についての講演を行い、地域に向けての情報発信の機会を得ている。今後は自己評価作成に、全職員のより積極的な参加にも期待したい。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議は、早めに日時を決定し参加を呼びかけており、家族の参加も多い。状況報告や予定案内を行い、地域からは、ふれあい昼食会や盆踊りなどの地域行事の案内が行われており、入居者の参加につながる等、地域との窓口としての機能を果たしている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センターなどより、研修案内等、情報を得ており、連携を図りながら質の向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関する制度について、年間研修計画に組み入れており、継続して学ぶ機会を持っている。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、現状として活用している方はいないが、資料等を整備し、情報発信が行える体制を整えている。外部研修にも参加し、伝達により制度に関する理解を深めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	月に1回、「帆柱での生活報告」を作成し、健康状態や暮らしぶりについての詳細な報告を行っている。また1年間の写真をアルバムにして誕生日プレゼントとして渡しており、本人・家族から好評を得ている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族から相談や意見があった場合には、「苦情・要望シート」を作成し、迅速な対応を行っている。また法人としての「お客様相談室」も案内しており、頂いた意見・要望は会議等で報告を行い、運営に反映させるよう取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	離職が少なく、開設以来勤務している職員が多い。現状として法人内での移動もなく、安定した状況にある。働きやすい職場環境づくりに取り組むことで、馴染みの関係が継続している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、性別・年齢を理由として採用対象から排除はしていない。法人としての採用となり、募集職種に適しているかどうかを重視している。余裕ある人員配置を行い、連続休暇や研修参加が行いやすくなり、働きやすい職場環境づくりへの確かな取り組みが行われている。目標評価制度を取り入れ、質の向上・モチベーションの確保につなげている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員に対しても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	人権教育は、新人オリエンテーションや年間研修計画に盛り込んでいる。日々のケアの中では、言葉使い・接遇等、気付いた時にその都度注意をしており、意識を高めていくよう取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として研修計画を作成しており、充実した内容が確認できる。また資格取得に向けての支援に積極的に取り組んでおり、ゆとりある職員配置を行い、外部研修参加や資格取得への支援を行っている。また研修として法人内で職員の入れ替え体験(数日)を実施する予定がある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	他事業所との間で、見学・意見交換等できる環境を作っている。同法人のデイサービスと合同で、定期的に勉強会を行っている。認知症「草の根ネットワーク」にも加入している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	見学や体験入居を行い、少しずつ環境に慣れてもらっている。その際にも丁寧な記録を作成し、課題や意向の把握に努めている。入居後も家族の協力も得ながら、一人ひとりに合わせた柔軟な対応を行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	ホームは入居者の生活の場であることを常に意識し、自室の掃除や雨戸の開閉等に力を発揮してもらい、職員は出来ない所を支援する黒子的存在である事を意識している。ともに達成感を得ながら、思いを共有している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の希望や意向は、本人に確認することを大切にしている。また入居時には家族にセンター方式に記入してもらい、また日々の暮らしの中での入居者との会話等から得た情報を、追記しながら、希望・思いを抽出し、介護計画に反映させている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式の活用によるアセスメントを行い、本人・家族の意向や状況変化を確認し、毎月職員全員での話し合いを行い、介護計画を作成している。一人ひとりの得意分野や役割りを活かした支援につなげている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に見直しが行われている。ケア内容を達成できない原因まで考察して評価へつなげている。本人・家族や医師・看護師との連絡も良く取られており急な変更にも対応ができています。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>外出や外食に出掛ける際には、同法人のデイサービスの車を活用したり、また行事の際には、法人スタッフの応援を得ることができる。家族の状況により通院支援を行い、また入院時には定期的に面会に出掛け、関係性の継続や、医療関係者との連携による早期退院への働きかけを行っている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>北九州市ものわすれ外来協力医療機関である、かかりつけ医による定期的な往診があり、職員が配慮すべき点についてのアドバイスを得ている。歯科についても往診が可能である。</p>		

きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「重度化した場合における対応に関わる指針」を示し、家族等への説明を行っている。今後想定される重度化への対応について、少しずつ具体的な検討を始めている段階である。		今後の重度化や終末期への取り組みを課題として捉えており、本人・家族の意向や職員の理解・スキル、医療関係者との連携体制の更なる充実等、話し合いを重ねながら、方針の共有に向けての取り組みに期待します。また運営推進会議で議題として取り上げていく事も検討して下さい。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入浴時や排泄時、居室への入室時等、プライバシーへの配慮を徹底して行うよう意識を高めている。記録物は裏向きに置く・事務室で保管する等、個人情報が簡単に目に触れないように配慮している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりの生活リズムやペースを把握し、大切にしている。「自悠時間」として、音楽を聴く・読書をする・TVを見る・ラジオを聴く等、思い思いの過ごし方をしている。悠々自適という発想でその人らしい暮らしを支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事に関するアセスメントを行っている。箸、湯のみ、茶碗等は馴染みの物を使用し、自身でテーブルに用意してもらっており、後片付けにも持てる力を発揮してもらっている。また、おやつを作りを楽しみながら一緒にやっている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に3回の入浴を予定している。拒否される方もいるが、言葉かけや対応を工夫し、無理強いとならないよう支援している。今年の冬は、近所の方より庭先に実った柚子を頂き、「ゆず湯」を楽しむ事ができた。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	食事のお品書きや木製の雨戸の開閉を、継続して日々の役割として担っている方もおり、責任を持って取り組んで頂いている。一人ひとりの日々の暮らしが活性化するように、充実したアプローチが行われている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日用品等の買い物に、入居者と共に出かけている。広いホームセンターではカートを押しながら移動し、また玄関先の階段の上り下りも、生活リハビリとして積極的に活用している。気候や天候により、周辺の散歩にも出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	夜20時から朝6時30分までは施錠しているが、日中はいつでも開放している。居室も鍵をかけることはない。玄関は開閉時に音が鳴るように工夫されており、安全面への配慮となる。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回の避難訓練を行っている。スプリンクラーの設置も終了している。訓練は夜間を想定して行っており、町内会長も見学を訪れている。避難場所として、食料や布団が準備されている新設された市民センターを確保しており、地域との連携が図られている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人内の栄養士により献立が作成され、食事摂取量も確認・記録している。また一日1200ml程度の水分摂取量を確保できるよう支援している。個別の状況により食事形態等に柔軟に対応しており、自力摂取、また全量摂取できるよう工夫がなされている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

きたふくグループホーム「自悠の郷」帆柱

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	広いリビングには3つのテーブルと椅子が置かれており、自由に座れる工夫がある。一段高い位置にある和室には、掘りごたつやTV、新聞なども置かれており、寛ぎの部屋となっている。リビングからは、庭や周囲の山々を眺める事ができ、高台から見える景色を十分に楽しめる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	部屋の入口の表札や暖簾により、自室としての目印になっている。民家改造型の特徴として同じ間取りの部屋が少なく、部屋にあわせてそれぞれの自分らしい部屋作りが行われている。家族の写真や使い慣れた筆筒・椅子などが持ち込まれており、家族とともに過ごせる、ゆとりある空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			